

令和5年度第1回

睦沢町総合教育会議議事録



睦 沢 町

令和5年度第1回睦沢町総合教育会議議事録

1. 日 時 令和5年7月27日(木)
開会13時27分 閉会14時56分
2. 会 場 睦沢町役場3階 302・303・304会議室
3. 出席者 睦沢町長 田 中 憲 一
睦沢町教育委員会 教育長 鵜 澤 智
教育委員 佐 藤 秀 文 (教育長職務代理者)
教育委員 飯 塚 史美代
教育委員 久 我 哲 也
教育委員 藤 原 雪 枝
(事務局)
総務課長 白 井 住三子
教育課長 (中央公民館長・歴史民俗資料館長) 宮 崎 則 彰
教育課主幹 (指導主事) 藤 田 英 和
教育課副課長 (学校教育班長) 御園生 憲 利
教育課主査 (生涯学習班長) 岡 田 好 弘
4. 協議事項 (1) 第2期睦沢町教育振興基本計画の進行管理について
(2) その他
5. 傍聴人 なし

【 13時27分 開会 】

藤田主幹 ただ今より、令和5年度第1回総合教育会議を開会します。
初めに、田中町長よりご挨拶をいただきたいと思います。

田中町長 皆さんこんにちは。令和5年度第1回総合教育会議の開催にあたり、一言ご挨拶を申し上げます。

教育長を始め、教育委員の皆様におかれましては、日頃より、町教育行政の推進にご尽力いただき、誠にありがとうございます。

近頃の情勢を振り返りますと、新型コロナウイルスもありましたが、教育分野においても、学校教育のほか、文化やスポーツなど、社会教育の分野でも様々な変化があるように感じています。この中で地域の多様な意見を反映させるべく、大変難しい舵取りをしていただいていることに関しまして、重ねてお礼申し上げます。

さて、本日の議題となっている第2期陸沢町教育振興基本計画の進行管理についてですが、陸沢町の園小中一貫教育が2020年4月にスタートし、4年目を迎えたところです。この計画策定当時には見えなかった課題や、時代の変化もあると思います。是非、この機会に忌憚のないご意見を頂戴し、陸沢町で生まれ育った子どもたちのためにも、また今年度は町制施行40周年を迎えていますので、先人たちが残してくれた自然や文化、伝統についてもしっかりと継承していき、様々な計画に反映していきたいと考えていますので、細かな点までのご意見をいただけますようお願いを申し上げます。

藤田主幹 次に、鵜澤教育長よりご挨拶をいただきたいと思います。

鵜澤教育長 改めまして皆さんこんにちは。本日は令和5年度第1回の総合教育会議を開催していただき、ありがとうございます。

この総合教育会議は、設置要綱の趣旨にもありますが、町長と教育委員会が、円滑に意思疎通を図り、教育の課題及び教育目標を共有し、効果的な教育行政の推進に資するために設置されたものです。私ども、教育委員会としても、大変重要な会議として、出席をさせていただいております。どうぞよろしく申し上げます。

さて、令和2年から長らく続いていました新型コロナウイルス感染症は、この5月によりややく感染症の位置付けが2類から5類に移行し、いわゆる季節性インフルエンザと同等となり、大きな区切りを迎えました。これにより、教育現場においても考え方や対策が大きく転換しています。5類になったとはいえ、報道では第9波の到来とも言われていますが、感染症対策を忘れることなく十分留意したうえで、学びの保障に努めていきたいと考えています。

学校の教育現場においては、以前より教職員の働き方改革が必要といわれていますが、目まぐるしく変化していく環境においても本町の教職員は皆、一生懸命に子どもたちと向き合っています。これからはコロナで中止や縮小を余儀なくされた行事等がコロナ前に戻れるように期待するとともに、教育委員会としてもサポートをしまいたいと思います。また生涯学習活動におきましても郡民体育大会が4年ぶりに開催されるなど、各活動や行事がコロナ前に戻ってまいりました。町民の文化的、また芸術、そして体育的な活動をさらに推進してまいりたいと思っております。

さて、本日の議題は、第2期陸沢町教育振興基本計画の進行管理です。重点施策に

よっては4年度の実績ですので、新型コロナウイルス感染症の影響を受けているものもありますが、進捗状況を確認し、必要に応じて適宜見直しを図り進めていきたいと思ひます。

改めて、睦沢教育に対する町長の特段のご理解とご支援をお願いします。本日は、よろしくお祈ひします。

藤田主幹 それでは、本日の議事に入ります。議事進行につきましては、睦沢町総合教育会議設置要綱により、田中町長にお願いします。

田中町長 それでは、本日の議事に入ります。

議題（1）第2期睦沢町教育振興基本計画の進行管理について、事務局の説明をお願いします。

宮崎課長 皆様のお手元に配付の令和4年度点検・評価報告書により説明させていただきます。教育委員会では、睦沢町教育振興基本計画の進行管理として、毎年度、重点施策ごとの指標を基に、その実績や達成状況を分析し、課題を整理しながら評価を行い、目標の達成に向けて活動をしております。

これは、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第1項の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに公表しなければならないとあります。

教育委員の皆様には、既に点検・評価を行っていただき、ご承認をいただいたところです。今回の総合教育会議は、その点検・評価結果に基づいて、町と教育委員会が円滑に意思の疎通を図り、効果的な教育行政の推進に資するためのものです。6つからなる基本目標の各項目において、実績の低かったところを中心に課題・改善を含めて説明させていただきます。

なお、今回の評価は令和4年度のものとなり、令和2年度から令和6年度までの5年間の第2期睦沢町教育振興基本計画の3年目でありますことを申し添えます。

1ページをお願いします。ここでは、（1）根拠法令、（2）評価重点施策、（3）点検・評価の方法について記載しています。その評価結果については、13ページから18ページに添付させていただいています。まず、教育委員会の活動実績になりますが、2ページから3ページをお願いします。総合教育会議は7月と12月に開催しました。教育委員会定例会は毎月1回開催しており、内容についてはこの資料で確認願ひます。4ページをお願いします。その他の活動として、各学校・園への訪問、成人式～20歳の集い～、教育委員会表彰式などがありました。

次に、教育委員会及び外部委員による点検・評価を行うための令和4年度の実績について、説明させていただきます。

6ページをお願いします。【基本目標1 園小中一貫教育カリキュラムの実施と確かな学力・自立する力の育成】ですが、5年前の小学校再編以降、学力の向上を図るため、0歳から15歳まで切れ目のない園小中一貫教育、子どもたちに主体的に取り組む態度を育成し、グローバル化に対応する教育、ICTを活用した教育を推進しています。

『重点施策1 一人一人の基礎学力の向上を図る教育の推進』ですが、実績の数値

の見方は、教科ごとに県平均を上回った児童生徒の割合です。全国学力・学習状況調査では、小学6年生が算数でやや低く、千葉県標準学力検査では、小学1年生で国語と算数、小学2年生で国語、小学4年生で国語と算数、小学6年生で算数、中学2年生で国語、社会、数学、英語がやや低く、50%を下回る結果となりました。他の学年及び教科では、県平均を上回った児童生徒数が半数を超えており、小学3年生、小学校6年生、中学1年生に至っては、目標の70%を超えている教科もあります。平均点で見ると小学校では22教科中12教科で平均点以上、10教科が平均点以下、中学校では、15教科中、12教科で平均点以上、3教科で平均点以下、これらを鑑みますと、学力の高い児童・生徒と学力の低い児童・生徒の二極化が起きており、特に支援が必要な児童・生徒の多いクラスは影響が出ました。

7ページをお願いします。『重点施策3 伝統と文化を尊重し、郷土への愛情と誇りを持ち、グローバル化に対応する教育の推進』では、地域の行事に参加していると回答した児童生徒の割合は、コロナ禍もあってか、昨年度に比べ減少している反面、家庭での時間が増えたことも要因と考えられますが、英検の合格者の割合が50.0%と昨年度の43.2%と比較して大幅に増えました。中学校では、英検の受検を生徒に積極的に促して、その成果が出てきているものと思われます。また小学校5年生以上は、英検受検料の補助制度がありますので、教育委員会として学校通じて活用を促していくとともに、この補助制度が1年度につき1回限りであったものを、今年度中に回数の制限をなくす改正を考えています。

8ページをお願いします。【基本目標2 郷土を愛し、豊かな心と健やかな体の育成】では、児童生徒の豊かな心を育むために、自他の生命の尊重、他者への思いやり、困難を乗り越えていく力の育成を図っています。いじめの問題についても、些細なこと、小さなことでも心に傷を負ったということでカウントし、関係機関と連携し、早期発見・早期解決に取り組んでいます。健康と体力については、幼少期からの生活習慣が大切と考え、子どもの頃からの健康の維持、食育の充実、体力の向上を図っています。

『重点施策8 いじめ防止対策の推進と生徒指導の充実』では、いじめの解消率に関して、令和4年度は小学校で96.3%、中学校で75%と昨年度と大きく変わっていません。いじめ解消の判断には、双方で解消したとしてから3カ月間何もないか様子を見る必要があるため、年度末近くに発生したものは、まだ解消されていない件数にカウントされますが、現時点は解消に向かっていると伺っています。

『重点施策10 健康（幸）の保持増進』は、毎日の朝食を食べていると答えた児童生徒の割合ですが、令和4年度は中学校で100%となり、小中学校ともに100%を達成しました。早寝早起き朝ご飯推進の成果が出ているものと思います。令和5年度も引き続き100%となるように働きかけをしていきたいと思えます。

『重点施策11 体力の向上と学校体育活動の推進』では、新体力テストの結果ですが、令和3年度と令和4年度で少し低下が見られます。この要因はコロナ禍により制限があり、運動をする機会が減ったことが大きく影響していると思われます。全国的にもこの3年間は下がっています。コロナも2類から5類になりましたので、コロナ前の水準に戻れるような取り組みを、今後考えていきたいと思えます。

9ページをお願いします。【基本目標3 多様なニーズに対応した教育の推進】では、

一人一人が豊かな生活を送り、公平公正で活力ある社会を実現するうえで、障害の有無や不登校等の多様なニーズに対応し、一人一人の子どもの能力、可能性を最大限伸ばす教育を実現することが求められています。

『重点施策13 不登校児童・生徒への支援の充実』では、小学校では、居場所を見出せず不登校になりがちな児童のために「ひだまり」という居場所を作り、支援をしています。徐々にですが、教室に戻り授業に参加できたという児童もいます。また児童のほか、その保護者も当初からとても前向きに変わったという人もいらっしゃり、徐々にですが成果が出ています。中学校においては、少し増えていることから、行政機関、スクールソーシャルワーカー、長生ひなた、健康福祉センター等と連携したケース会議の開催や、スクールカウンセラー来校日にカウンセリングを行うなど、個別の事情に合わせて、対応を続けていきたいと思えます。

また、小学生のときは、ひだまりを利用し、学校に通っていた児童が、中学生になり、学校に行きづらくなっているという話も伺ったことから、今年度、教育委員会、ひだまりの支援員、小中学校の教員、町福祉課などと意見交換をする場を設けたいと思えます。

10ページをお願いします。【基本目標4 質の高い学校教育を推進するための環境の充実】では、学校の指導体制やICTの活用、環境の整備等、次世代の学校教育の在り方が問われる一方、かねてより教員の働き方改革など、教師の負担も大きいことが指摘され、これまで以上に教師1人1人が持てる力を高め、限られた時間での授業や児童生徒の指導など、創意工夫をして効果的に行うことが必要です。これを推進するために、教師相互の授業参観や管理職等による積極的な助言や指導、校内研究及び研修の充実を図っているところです。

『重点施策15 教職員の資質・能力の向上』では、指導主事が小中学校の若手教員の授業を参観して、授業後に適切なアドバイスを行い、教職員1人1人のスキルアップを図っています。小学校の令和4年度実績は、令和3年度からやや向上していることが伺えます。また中学校は対象の教員全員となり、目標を達成しました。小学校においても目標を達成できるように取り組みを考えていきたいと思えます。

11ページをお願いします。【基本目標5 家庭・地域教育力の向上】では、社会の目まぐるしい変化の中、家庭や地域も大きく様変わりし、核家族化、ひとり親家庭、共働き世帯等、家庭の多様化が進んでいると言えます。多様化する家庭環境に対しては、地域全体で家庭教育を支えていく必要があります、これには家庭や地域との連携・協働を推進していくことが大切だと考えています。

『重点施策20 家庭・地域と連携・協働した教育の推進』では、学校支援ボランティアの活動延べ人数について、令和3年度よりも人数が増え充実してきています。学校からの要望も多くなってきていますので、更に充実を図っていききたいと考えています。

12ページをお願いします。【基本目標6 生涯学習活動の支援と芸術・文化、運動・スポーツの推進】では、生涯学習の推進体制の強化を図るため、一人一人が生涯にわたって必要な知識や技能を身に付け、自らの可能性を發揮できるように、町民のニーズに合った学習環境の提供などを行っています。

また公民館図書室では、SDGsの特集や防災コーナーなど、常設展示を昨年度から増やしております。今年度については、町40周年や千葉県の150周年を記念して、睦沢町に関連する書籍や千葉県に関連する書籍などを、ロビーに特集展示として、コーナーを設置しております。今後も利用者のニーズや利便性向上に努めていきたいと思っております。

『重点施策21 生涯学習推進体制の強化』は、公民館の年間利用者数ですが、令和4年度は昨年度よりも年間利用者が増えました。令和4年度中はコロナの影響も少なからずありましたが、令和5年度は公民館のサークル活動を見てもコロナ前に戻ってきているような状況だと思われまます。

『重点施策22 芸術文化の振興と伝統文化の継承』は、歴史民俗資料館の年間利用者数ですが、令和4年度は昨年度よりも年間利用者は減っていますが、各種の企画展や特別展の回数は同じくらいを開催しております。イベントの内容により来場者数に増減があったものと考えています。また歴史民俗資料館は、近隣の多くの学校から見学にいらっしゃいます。新たな企画や施設の充実に取り組み、より多くの世代の人に、ご利用いただける施設として努力させていただきたいと考えています。

『重点施策23 運動・スポーツに親しみ健幸長寿のまちづくり推進と障害者スポーツの啓発と理解』は、ふれあいスポーツクラブに委託しているスポーツ教室への参加者数です。令和2年度、3年度は新型コロナウイルスの影響を受けて、大きく減りましたが、令和4年度は公民館と同様に利用者数は、元に戻る過程にあると思っております。引き続き、ふれあいスポーツクラブと連携を密にして、スポーツ教室の充実を図って行きたいと考えています。

令和4年度を振り返りますと、文科省の通知にもあるとおり、学びを止めないとの方針のもと、新型コロナウイルス感染症予防対策を講じながら、学校教育や生涯学習、それぞれの学びの保障に努めてまいりました。第2期睦沢町教育振興基本計画は、令和2年度から令和6年度までの5か年の期間で、令和5年度は4年目となります。目標の達成に向け鋭意努力してまいります。

最後になりますが、昨年の12月に開催された、第2回の総合教育会議で重要施策の説明のあり、要望もかねて説明させていただきましたが、総合運動公園屋内プールの水泳授業での占有、千葉県の補助事業活用による第3子以降の学校給食費無償化、必要とされている人に必要な支援が行えるように、こども園の適正利用の推進、放課後児童クラブの適正利用の推進、学校施設の危険箇所修繕として、中学校体育館特定天井対処工事など、予算を伴うものが多くありましたが、町執行部における特段のご配慮等により、教育委員会所管事業の充実が図れていることに、この場を借り、お礼申し上げます。ありがとうございます。

説明は以上となります。本日は、教育委員会と町執行部が一堂に会する場でもあります。田中町長のお考えはもとより、今後の教育行政の推進について、ご出席の皆様のご忌憚のないご意見、ご協議をいただければと思っております。

田中町長 説明が終わりましたので、協議に移りますが、最初に私から何点かお話しさせていただきます。今、課長から取組の報告があった部分について、計画の中で例えば英検の補助をして受検者も増えて結果も出てきていて、成績においても学年でバラツキ

はありますけども少しずつ上がっているのかなと思います。何点か計画通りに追いかけていけないところ、つまりコロナが収まってきて戻ってくるだろうけど、戻れない部分もあるのかなと思います。例えばロードレース大会であったり、中断していたから運営も難しくなって打ち切られるようなことだったり、私が青少年相談員をやっているときは、高橋尚子さんを招聘する前で、自分たちで作ったマラソン大会をやっていたと思いますが、断ち切ってしまう方向性が出てしまっているのかなとも思います。計画の途中だけども、何か変化を与えた新たな取り組みに移るような動きが見られなくて、途切れてしまっているような感じも少ししたりしています。またこども園や放課後児童クラブの件が出ましたが、こども園の無償化が始まった中で、0歳から2歳児を預ける人が増えたのも、環境が変わり新たな取り組みをしていかなければならない中で、4月から先生方の事務量を減らそうということで、こども園については、事務職員を2人体制にしましたが、先生方の仕事量がなかなか減っていないような話も聞きますので、例えば昨年度に先生方にアンケートをとったところがどの位反映されているのかや、働き方改革でアンケートをとったのか、仕事量についてアンケートをとったのか、それが今年度に少しでも改善されたのか、分かっているのであれば聞かせていただきたいと思います。あと、ひだまりについて、小学校は成果が出ているということで、とても評価する部分です。今年度は中学校に関する部分についても協議を進めるということなので、是非加速してやっていただきたいと思います。教育委員会と学校と福祉課等で、学校に行けない児童生徒の情報共有が、学校だけで止まっているのか、不登校になる前に福祉でカバーできたり、兄弟がいるなら教育委員会でカバーできるとか、そういう取り組みも少し早めに行けるとよいと思いますが、現場の中で、もう少し地域と融合できないかや、何点か疑問に思ったところがあるので、分かればお願いします。

宮崎課長

ロードレース大会ですが、スポーツ推進委員が中心となり、その会議の中で諮りました。各委員の年齢であったり、3年間やっていなかったこともあり、やらない方向でとの話になりました。その替わりという訳ではありませんが、町制施行40周年記念事業でふれあいスポーツクラブで新たにウォーキングイベントを計画していただいていますので、ウォーキングであれば若い人からお年寄りまで参加できるイベントですので、運動不足であったり、コロナで体力が低下しているのを補う取り組みの一つにできないかと考えております。こども園の事務職員の関係ですが、先日開催されたこども園の連絡会議の中で、まだ半年経っていないので、全ての事務を新しく来た職員が携わっていませんが、副園長等が現場に出られる機会が増えているとの話をしていたので、今後も良い方向に向いていくと思います。ひだまりの件ですが、7月7日にひだまりの支援員、小学校の校長と教頭、教育委員会で今年度初の情報共有の会を開催しました。小学校でひだまりを利用して学校に行けていた人が中学校では行けなくなってしまったや、中学校では行けるようになった人などのいろいろな話が出ました。支援員からは、小学校だけで情報を持っているのではなくて、中学校とも情報共有したいし、中学校を卒業すると高校に進学したり、就職したりしますので、福祉課としても情報共有していないと、その後の対応ができないとの話がありましたので、中学校や福祉課と相談したところ、協議する場を持ちましょうとの話になっ

たので、近いうちに協議したいと思っています。不登校を早く見つけるとの話の中では、中学校の先生は頑張ってくださいと、少しの変化でも教育委員会に連絡をくださいますので、教育委員会も先生方と一緒にやって対応していきたいと思っていますし、福祉課からもそういう情報を早くもらえるように話をしています。例を申しますと、転入する人でDVがあったりなどが福祉課から情報が来ていますので、最初から情報があることで、早く対応できますので、今後、進めて行きたいと思っています。

田中町長 その情報共有は、更に深めていただきたいと思います。こども園の働き方改革でアンケートを取っているとは思いますが、小中学校は県からガイドラインが示されたりしますが、こども園は町でしっかり見なければならぬので、そこが後手になり職員の離職に繋がるのが少しでもカバーできればよいと思うので、アンケートで先生方が言っていたことが少し解消できたとか、まだ手を付けられないとかの確認をしていただけたらと思います。

それでは、協議に入りたいと思います。ご意見がある人はお願いします。

佐藤委員 23項目の中で一番評価が低い11番の体力の向上と学校体育活動の推進について、コロナ禍でほとんど運動ができない状況でしたが、少しずつできるようになってきています。また暑さなどで運動ができない危険な時期もありますが、やはり学校の体育の授業の中で少しでも運動量を確保して増やすように、また小学校では外遊びを奨励するなど、先生方に工夫や努力をお願いしたいと思います。中学校の部活動について地域移行の準備が始まり、過渡期のような状況です。子どもたちが家庭に帰ってから運動の時間を求めるのは無理だと思います。遊びの形もすっかり変わっていますし、塾等もあり、子どもたちは日々忙しくて時間がないような状況だと思います。資料に示された新体力テストの数値がなかなか戻らない訳ですが、昔の子どもと今の子どもを比べて体力が下がったと一喜一憂するよりも、今どきの子ども用に肥満にならない、生活習慣病にならないような健康な体力づくりを主に考えるようにしていくことが大事ではないかと思っています。

藤田主幹 学校では体育の授業のときにできるだけ運動量を増やそうということで、体を動かす時間の確保に重点を置いています。一時期、体育の授業でも学習カード等を使用したり、活動の振り返りをすることも多くなっていましたが、小中学校も準備運動の後に走らせるなどを取り入れて進めているところです。小学校では外遊びを奨励しています。ただ夏場は熱中症の心配が近年増えていて、気にしなければならない部分でもありますので、十分注意して対応していきたいと思っています。中学校は発達段階に応じた体力を考慮して一概に中止ということではなくて、活動のできる範囲で授業や部活動を進めているところです。またスポーツ庁が出した全国のデータでは体力の低下の要因ということで3点挙げられていて、1点目は1週間の総運動時間が420分以上の児童生徒の割合は増加しているものの、以前の水準には至っていない。これはコロナもあったと思います。2点目は肥満である児童生徒の増加です。スポーツ庁は全国的に見て肥満傾向である児童生徒が増加していることを発表しています。3点目に朝食を欠食している、睡眠不足、またスクリーンタイムといい、平日1日あたりのテレビ、スマートフォン、ゲーム機等による映像の視聴時間が増加する生活習慣の変化が挙げられます。新型コロナウイルス感染症によってマスク着用中の激

しい運動の自粛などもありますが、コロナ関係は今後解消されていくと思います。一方で朝食や睡眠不足など、生活習慣にも目を向ける必要が出てきました。教育委員会会議等でも話が出ましたが、食育について、或いは生活について見つめ直す部分も体力向上に合わせて今後取り組むことが課題で見えていますので、学校の栄養教諭や養護教諭とも連携しながら対応できるように考えていきたいと思います。

飯塚委員 昨日、保健栄養推進員の会議に出まして、小児生活習慣病のお話を保健師から伺いました。近隣の子どものたちの情報を教えてもらいましたが、令和3年度の調査ですが、睦沢町の当時4年生の特に男子の肥満度が非常に高い状況でした。睦沢町としてデータが出ていますので、近隣と比べると睦沢町の特に男子の肥満度が高いです。中学校も出ていましたが、また健康保険課とも連携しながら運動量を上げるのも大切ですが、肥満度を減らしていくのも一つの方法かなと思います。

藤田主幹 体を動かすだけで全てを解消してくださいと言うのは非常に難しいと思いますので、食育と健康の両面からと、体を動かす運動と3つで取り組んでいかなければならないと思います。体を動かす時間が多くても栄養が偏った食事ですとか、睡眠不足ですとか、或いは検診等で指摘されたものですとかも含めて見直していかなければならない機会でもありますので、学校へ伝えながら対応していきたいと思います。

田中町長 長生郡市の会議に出ていると、肥満の状況は、以前から睦沢町の子どもたちは肥満度が高いと言われます。学年にもよるとは思います、統計は小学校4年生と中学校1年生で毎年のように言われますが、何か理由があるのでしょうか。

藤原委員 前の調査のときに睦沢町の子どもはゲームをしている時間が長いと聞いたことがあるのと、気軽に遊べる場所が少ないのと、中学生でも部活動がないと家にいる時間が長いのと、放課後に遊ぶ時間が少ないのではと思います。

田中町長 今は、過剰に送迎をしている家庭も多いようにも感じます。登下校で歩くのが減っているのかなとも思います。確かに危険な箇所もあると思いますが、登下校中も良い社会勉強の場だと思います。塾に行くからすぐに迎えに行くですとか、普段の生活の中で歩くことが少なかったりですとか、先ほどの体力のこともそうですが、遊ぶところが少ないというよりは、送迎が過剰なのかなと思いますが、どうでしょうか。

藤田主幹 送迎の過剰について、そこまで確認をしていませんが、習い事で運動を習っている小学生はかなりいます。1週間で見ると、非常に体を動かしている児童と、ほぼ体を動かさない児童の二極化も見られるのではと思います。ただ科学的なデータを取っている訳ではありませんので、検証が必要です。運動公園の多目的広場で、学校帰りに保護者と遊んでいる児童を見かけます。休日に遊びに来ている人もいますので、一概に皆とは言えませんが、ご指摘のとおり、外遊びをほぼしなくてゲーム等をする子どもも多いので、その傾向は推測されると思います。学校とも連携し、情報を集めて保護者に情報を提供して改善したいと思います。肥満度が睦沢町が高いとのことで見直しをしたいと思います。

藤原委員 地域の格差があると思います。塾なのかスポーツなのか分かりませんが、すぐに移動が必要だから送迎をしている状況で、小学生のうちから習い始めるそろばんや、習字が町内で習えればよいですけど、茂原市など20分から30分かけて送迎しなければならないとなると、通学も必然的に車になってしまうので、町内で小さいうちから積

み重ねられるものがあれば解消していけるのかなと思います。やはり格差は気になります。子どもが体を動かすのが好きで、保護者もそれに時間をかけられればよいですが、家で過ごす時間が長くなってしまいうので、何かできるものがあるか、縄跳びとかが宿題で出るとか、時期によってあると思いますが、家でできることを提案していけるようになり、子どもたちも意識して体を動かせるようなシステムを作れたらよいと思います。

久我委員 私も歯科検診をしていて、異常に肥満度が高いのを感じています。肥満度が高い児童は齲蝕率、歯肉炎率も高いです。家庭で管理ができないと肥満もなかなか解消できないと思います。保護者が教育をするための情報ですとか、すべきことを具体的に知り得ていないのではと思います。体はカロリーがあれば成長しますが、実際はビタミンやミネラル、必須アミノ酸が必要ですので、それがバランスよく摂れないと成長期の筋肉や神経が発達しない訳です。町で個別に対応できればよいですが、成長期における理想的な1週間の献立はこうするとバランスよく成長できるですとか、小学生低学年はこれくらいのカロリーで、こういう食事の習慣を作ったらどうなのかですとか、理想的な一例を作って渡せばよいと思います。あとは肥満傾向な子どもは糖質を多く摂っている訳ですから、恐らく小麦の摂取が多いと思います。小麦は卵のように中毒性がありますので、小麦が不足するとまた欲しくなります。そのように管理できない状況になっている可能性があります。身長に対してこれだけカロリーオーバーとなれば、あなたはこういう形が理想ですよと提案し、このままだと将来こういう病気になる恐れがあるので、こういう食事にしたほうが理想的ですと伝えるとよいと思います。それができる家庭とできない家庭があるとは思いますが、子どもが同意してくれるかです。教育としてその子の将来を健康に導くということからすると、個別対応としての提案をしていければよいと思います。例えばここに虫歯があるから、こうしなくてはならない、養護教諭を呼んで、こう歯磨きをしてください、保護者にこう受診するように促してくださいと個別対応する訳ですよ。それと同じように肥満に対しても個別対応していければよいと思います。それをやるには基準がないとなかなか対応できないと思いますが、そういうものを作れたらよいと思います。栄養士などに頼めるのであれば、難しいことではないと思います。定期的にいじめのアンケートと同じようにこういう形が理想ですよと家庭に配付できれば、これが理想だと子どもも分かりますので、毎日パンが食べたいとか、スパゲッティが食べたいとかいうのではなくて、あなたのためにこの食事が大切だから、こちらのほうがよいんじゃないのと家庭でも一つの基礎ができていくのではと思います。あと子どもたちをどうやって運動させるかですが、あなたはカロリーをこれくらい消費しないといけないから、これくらいの運動が必要だとなりますよね。そうしたら1日にこれくらいのペースで何キロ歩いたらどれくらいカロリーを消費するかも分かります。それをさせるとなったときに、どこかで歩かせるのも難しいので、ルームランナーを何台か買うとか、予算のこともあるので難しいとは思いますが、歩かせることは安全にできると思います。どのように科学を用いてアプローチをしていくようにしていかないと、なかなか理解して動くようにはならないと思います。

田中町長 情報提供はとてもよいと思います。例えばクロムブックにその情報を表示できな

いのかとか、小学1、2年生がクロムブックを使えるか分かりませんが、ある程度の学年になるとクロムブックで自分の身長や体重を入れたらこれくらいのカロリーが必要ですか、ネットで調べると出てくると思うので、それをクロムブックに取り込めれば、家庭の意識も変わってくると思うので、久我委員の発言の通り、情報提供することによって、危機感を持たせるのは、小さい自治体の学校だからこそできると思いますので、検討していただければと思います。

藤田主幹 先生方から子どもたちにはそういう話をするのですが、保護者向けとなると、なかなか至っていないものもあると思いますので、保護者に向けての情報発信も含めて、また高学年は家庭科の授業もありますので、久我委員が仰られた栄養の部分、献立はどのようなものがよいのかも家庭科の授業のなかで学習できるのですが、飽くまで授業の中だけになってしまいますので、そのほかにも広げていくことを考えますと、いろいろな部分で情報発信をしたり、小学1年生はまだ難しいと思いますが、クロムブックを活用可能であれば、個人個人で考え方を見直すということだけでもだいぶ意識が変わる部分もあると思いますので、学校とも相談して対応できるものから積極的に取り入れるようにしていきたいと思います。

藤原委員 ひだまりについて、教室に戻れるようになったとの話は聞いています。その後、中学生になり、環境が変わって学校に行きづらくなることもあるので、今のひだまりに中学生でも通えるようにして、教室に戻れるようになると嬉しいと思います。多様なニーズに応えるなかで、学校に行けないことに対して学校が対応して下さることや、教育委員会で対応していること、福祉課で対応していること、地域の力が必要なことがあるので、情報共有していただきたいです。長い期間学校に行けなくて、中学校で行けないと高校にも行けずに引き籠りになってしまうとなかなか社会と接点を持ってなくなってしまうので、そういうお子さんを一人でも減らせるように、困っている家庭に対して、どうしたらよいのかが早く分かるように、社会と接点を作るうえでも協力して連携していく流れを作っていただけたらと思います。

宮崎課長 ひだまりについては、皆さんと協議する場を考えています。どういう形になるか分かりませんが、話し合う場を設けないと話が進みませんので、そういう形を取らせていただきたいと思います。

藤田主幹 不登校については主に学校が動いていますが、教育委員会にも情報は来ます。お子さんのケースによっては、福祉課とも繋がっていますが、全てネットワークとして構築されている訳ではありませんので、見直しが必要かもしれませんし、福祉課とも話をしながら、どのような形がよいのか、状況によって情報共有は可能な範囲で必要だと思いますので、連絡を取っていききたいと思います。また町だけではなく、外部との連携も小中学校はしていますので、様々な状況で学校に来られないお子さんがいますので、対応できるように外部機関との連携も進めていきたいと思います。

佐藤委員 いじめ防止に関わることですが、町では深刻ないじめの話は聞きません。小中学校の先生方が努力をしている結果が数値になっていると思います。いじめの定義ですが、児童等が心身の苦痛を感じているものがカウントされます。県や国に上がっていく数字はその定義ですので、小学校低学年はちょっとしたことでいじめの件数になるので、小学校は中学校と比べてもかなり数が多いと聞いています。いじめが全く

なくなることは困難だと思います。月1回小学校でアンケートをしてきているとのことですので、子どもたちが書きやすい、周りの子に気にしないで自分の気持ちを書きやすいようなアンケートをこれからも進めていただいて早期発見、早期対応でいじめの芽を摘んで、今後もきめ細かい指導を続けていただきたいと思います。

久我委員 いじめがない社会は基本的にはないと思います。それがあって人は成長する面もあると思いますが、その中の道徳的な考えで、学校内でアンケートを取るの現状を把握するうえでとても大切なことですが、理念として道徳上、いじめられる側、いじめる側、何が原因でそうなるのかを教育していただきたいです。なぜいじめてしまうのか、なぜいじめられてしまうのかの原因は必ずある訳です。いじめられている側は、おそらく挨拶をしていないだろうと思います。いじめる側の人に朝、気持ちよく挨拶をしていない。そうすると、まずは朝の挨拶から全員がちゃんとできているのかや、そこの教育をもう一度、アンケートだけではなくて、道徳的なことを子どもたちに指導していただきたいと思います。

藤田主幹 いじめについて、一番発見が多いと言われているのがアンケートです。職員に相談があって発覚することもあります。アンケートからが一番多いので、書きやすいアンケートを活用して早期発見、早期対応を心掛けたいと思います。いじめに対して被害と加害の要因なども掴んで子どもたちに伝えることで、状況によっては、自分を見直すことも考えられ、子どもたちから発生するいじめが、少し考え方が変わるかもしれません。今までは、いじめはいけないということに重点を置いています。いじめの被害、加害、原因にも目を向けていきたいと思っています。現状は様々なことに対応していますが、いじめに関しては国でも重要視していますので、特に注視して対応していきたいと思っています。今後も子どもたちの様子を見ながら対応し、学校とも早急に話をして、引き続き対応していきたいと思っています。

飯塚委員 基本目標Ⅰの重点施策1について、評価の数値は2.8ですが、昨年より0.4上がりましたので、実績を見ても令和3年度から平均値を上回った児童生徒がいるということで、とてもよいことだと思います。家庭学習の充実の成果か、或いはICTの活用ができるようになってきたのか理由は分かりませんが、非常によい傾向だと思います。また進学率も向上しているようですので、引き続きお願いしたいと思います。

藤田主幹 日頃から様々な助言をいただき学校職員にも伝えていきます。点数だけを追い求めている訳ではありませんが、しっかりと子どもたちが自分から学びを進めていけるような形を更に追及して進めて行きたいと思っています。小中学校の職員も一生懸命に子どもたちに学力を付けてもらいたいとの思いで日々努力しています。普段、忙しい中で仕事をしていますので、夏休みに体を休めてくださいと話をしますが、夏休み期間中は研修を希望する職員が多いです。それだけ意欲的な職員がいて、特に若い職員が多いと思いますので、体に気を付けながら子どもたちのために指導支援に当たれるように伝えていきたいと思っていますので、これからもよろしくお願いします。

鵜澤教育長 この会議は、町長と教育委員会がいろいろな情報共有しながら連携して効果的に推進していこうとのことだと思いますので、皆さんの意見を聞いている中で、是非、お願いしたいのですが、献立を1週間分作ってその年齢に合ったカロリーであるとか、運動量であるとかを作って家庭に情報提供するのは、家庭によっても認識に差が

あると思いますので、非常によいことだと思います。ただ、これを学校職員が作るのには非常に大変なことなので、健康保険課の栄養士や保健師の専門の人の力を借りてできればありがたいと思いますので、よろしくをお願いします。

田中町長 私から健康保険課に話をしておきます。教育委員会は、作った段階で配付や情報提供できるように、しっかり利用してくださいとの形が取れるようにお願いします。

鵜澤教育長 ありがとうございます。

飯塚委員 私は保健栄養推進員をやっていますが、毎回、保健師の話が非常に役立ちまして、高血圧などの話をされています。保健師が忙しいのであれば、保健栄養推進員もお手伝いできると思います。こども園には食育活動や、おやつ作りに行っているようですので、小中学校にも伺えるようであれば、そういう活動もできるのではと思います。

田中町長 今年中に配れるように進めましょう。ここで話し合っただけでは意味がありませんので、私もこのあとすぐに健康保険課に話しますので、教育委員会と連携を取って進めてください。情報を集めて提供したり、学年ごとに体の大きさによって変わるのであれば、表にするとかのやり方はあると思います。冬休み前に配れるようにしてください。

久我委員 コロナワクチンを接種した後に体調不良等になった人が全国に沢山いらっしゃいますが、それで小中学校に行けなくなってしまった、或いは不登校になってしまったというケースが陸沢町でありますか。

藤田主幹 ワクチン接種後に体調不良で長期に渡って登校できなくなったり、長期欠席であるとの話は聞いていません。

鵜澤教育長 接種後に発熱して翌日に休んだ人はいると思います。

久我委員 そういうケースは結構あったと思います。

田中町長 議題（１）についてほかに意見がなければ、次に進めさせていただきます。

議題（２）その他について、皆様から会議に掛けたいこと、また報告などがありましたらお願いします。

宮崎課長 久我委員に伺いたいのですが、今でも小中学校でマスクをしている児童生徒がかなりいます。マスクが肥満や体力低下に影響を及ぼすことはあるのでしょうか。

久我委員 リンパと神経系が8歳から12歳くらいまでが一番発達します。その時期にマスクをすることで酸欠になります。酸素飽和濃度がマスクをしていると30%低下すると言われていいますので、明らかに脳血流量は酸欠になっている状態です。これで勉強なさいというのは結構厳しいと思います。

宮崎課長 運動するうえでもマスクをするだけで酸素が少なくなって体が思うように動かないこともあるのではと思います。

久我委員 酸欠状態ですので、気合でやってもらうしかないような感じですね。

宮崎課長 マスクの強制はできませんが、外したほうがよいのでしょうか。

久我委員 マスクをしないことのメリットを伝えるほうがよいです。風邪などが流行したときにはマスクをするのがよいのかもしれませんが、コロナの場合はマスクをしている人もかかりましたので、あまり効果がなかったとも言えますけども、エチケットとしてはありだと思います。外してよいとは言にくいですし。場面によっては予防として必要だと思います。大人がマスクをするのと、子どもがマスクをするのはリスク

が違います。マスクによっては吸ってはいけない成分が入っているものもありますので、それを吸い込んでアレルギーになってしまう可能性もあります。マスクをしながら生活するのは異常なことだと思いますので、しないことのメリットはこうで、成長にもかかわりますと伝えるようにしていただきたいです。基本は酸素飽和濃度で、中枢が酸欠状態になっているのは、体に正しい指示を出しにくいです。肥満の影響については、基本的に代謝は下がります。免疫も代謝も下がりますので、酸欠状態ですと結局代謝が上がらないです。

田中町長 免疫力が下がれば、ほかの病気にもなりやすくなりますよね。

藤原委員 今、ヘルパンギーナやインフルエンザが流行っているのは、マスクをしていて免疫力が下がっているお子さんが多いからだと思います。別の歯科医に聞いたのですが、マスクをしていると口呼吸が多くなるので、口内環境が悪い状態なのと、上顎の下のところが、鼻呼吸することで成長するのに、口呼吸なので成長しなくなります。

久我委員 中顔面の副鼻腔の部分が鼻呼吸をすることによって成長していきます。口呼吸ですと中顔面が成長しなくなりますので顎が小さくなります。舌は遺伝子によって大きさがほぼ決まりますが、顎は生活習慣で小さいままで終わってしまう可能性があります。舌は口を開けたまま飲む動きをすることはできません。舌が動いて前に出るか、上がるかです。上がるのが理想で嚙下と言います。上がる人はまだよいのですが、舌が前に出て歯に触る人は異常です。この状態のまま顎が小さくて中顔面の成長が遅いと、舌骨が後ろに下がって成長が終わるので、気道が狭くなります。そうすると日常生活で、自分の成長が理想的に促されないことになります。いろいろな疾患で亡くなるときの3割の人は嚙下障害です。保護者も知らずに、お子さんはその理由で将来亡くなる可能性があります。

藤原委員 嚙んで飲み込むことができない幼児や児童がいたり、副鼻腔炎になってしまうこともあります。

久我委員 中顔面を成長させることがとても重要です。

藤原委員 マスクをするかしないかで、半年くらいで全然顔つきが変わってきます。

久我委員 マスクをするデメリットは相当あると思います。

宮崎課長 8歳から12歳くらいまでですと、小学生の年代ですね。

久我委員 小学校中高学年では、身長が一気に伸びていく年代でもあります。脳も大きくなります。字もどんどん上手になっていき、描く絵も変わってきます。中学生くらいになると大人と同じような絵を描けるように発達してきます。ですので、その時期は重要です。それなのにマスクをしていたほうがよいとなってしまうと、正しい情報を得られないままになり、大人になってから正しい情報を聞いて、誰も教えてくれなかったとなれば不幸です。家庭の教育と学校の教育は別に考えなくてはならないと思います。家庭では子どもに食べさせないといけないからと、毎日パンでは肥満にもなるし、虫歯にもなります。ちゃんと歯磨きをしなさいと言っていれば親の役目を果たしていると思うかもしれませんが、虫歯だらけになるかもしれません。それで治療に連れていかないとマルチトメントな状態な訳です。そうすると見えない問題になってしまいます。家庭で行われている現状と、あなたの体を作っていくうえで今の理想はこうだと伝え、先ほども献立を作って配付するのは親が作れないからで、経済的に

は問題がないのであれば、自分で作ればよい訳です。自分で作って自分に還元させるという情報も伝えて、もし作れないのなら、月に1回料理教室をやるとか展開していけばよい訳です。

藤原委員 低学年であれば、保護者に向けてこういうのが大事だとなりますが、中学年くらいからは、こういうふうに分が作られ、こういうものを食べれば勉強ができるようになる、スポーツができるようになるというように、自分も意識できるような通知の仕方だと自立に向けてよいと思います。中学生になれば保健だよりも自分たちが分かるように保護者よりも中学生向けに書いてくださっているものがあります。自分たちが理解できるようにして、虫歯があったのなら、くが歯科なら自分で歩いて行こうですとか、そういうような流れを作っていくのも必要かなと思います。

久我委員 医療費が小中高校と無償になるじゃないですか。都会は分かりませんが、この辺りでは保護者が医院に連れて来ます。ですが自分で行こうと思えば行けますよね。保護者には治療してよいかと聞けばよいです。中学生の口の中を見る保護者はほとんどいないです。小学校高学年くらいまでは頑張って歯磨きをします。千葉県歯科医師会も小学生のうちには保護者が歯磨きをしましょうと推奨しています。小学4年生のときに全国小学生歯磨き大会があり、そこで歯磨きを自立させるための一斉トレーニングのような授業があります。睦沢町はコロナになってからは参加していません。そこで子どもたちが自立することを促す訳です。そして親からの歯磨きを自立させてちゃんと自分でやれるようになりましょうねとの流れになります。保護者には小学生のうちには歯磨きを見てくださいとしています、中学生は言われていないので、自分で管理していかなければなりません。でも医療的な自立はなかなかできないです。具合が悪いから一人で病院に行くよりはなかなかできないです。でも保護者はそこまで関心を持っていないので、中学生になったら自分の体をしっかりと自分たちで認識するように自立していくようにしたほうがよいので、いろいろな正しい情報を子どもたちに与えて後悔しないようにしたほうがよいです。情報が少ないと知らなかったになってしまうかもしれません。同じ靴をずうっと履いていたから足が小さいままになってしまったかのようにならないように正しい成長を促してあげたほうがよいと思います。マスク一つ取っても難しいです。マスクは任意ですが、している、していないで、いろいろな意味合いがあって、認められたような形になってきています。まだ外していないのかや、一人外していたら、何で一人で外しているのって、いじめの原因になる可能性もありますが、そこはどうしてそうなのかと、双方に立ってフォローできるように伝えられたらよいですね。

官崎課長 ありがとうございます。

田中町長 ほかにありますか。ないようですので、これにて会議を閉じてよろしいでしょうか。議事がすべて終了しましたので、進行を事務局に戻させていただきます。

藤田主幹 ありがとうございます。以上で令和5年度第1回総合教育会議を閉会します。皆様お疲れ様でした。

【 14時56分 閉会 】